

## 子ども理解がもたらす子ども、教師間関係の変容

鶴巻 直子 杉浦 智美 加藤 純子 加藤 和成 加藤 惟一

### 葛飾こどもの園幼稚園

#### 1. はじめに

日々の幼稚園生活の中で、子ども理解を深めることが、教師と子どものよりよい関係を育てるものと考えられる。その為には、日常の保育の保育記録を通して子ども理解へと生かしていくことが大切であると思われる。

本研究では、子ども達の遊びや様子、教師との出来事だけでなく、その子をよりよく知るために、今までの様子や、出来事、その子の背景になるものを良く知り、エピソード記録をしていくことを通して子ども達1人1人の良い成長と自分たち自身の保育を振り返り検討していく。

#### 2. 目的

幼稚園での一定期間内での子ども達との良い出会いや1人1人のあそびを観察、記録する。

又、子ども達の背景にある物も含め参考にし、子どもと教師間の関係の変容について検討していくことを目的とする。

#### 3. 研究の方法

##### 1. 保育の概要

園児：140名 縦割り5クラス編成  
(各28名 担任2名)

|        |                   |      |
|--------|-------------------|------|
| 9:00   | 11:30             | 1:30 |
| コーナー活動 | クラス活動(弁当・絵本・集会など) |      |

##### 2. 保育実践研究計画

##### 第1期

##### 4.5月・初期の様子の記録、検討

##### 6.7月・林間保育へ向けての活動の中での様子の記録、検討、保育の見直し

##### 第2期

##### 9.10.11月・2学期の様子の記録、検討、保育の見直し

##### 保育検討の方法

- (1) エピソード記録をとり、その内容について複数担任間で検討する。
- (2) ただ単に出来事を記録するのではなく、

その背景にあるものを出来るだけ推測し記録につとめると共に教師の思い、気持ちの変化などもできるだけ記録していくようにする。

##### (3) 保育の振り返り

日々の保育を振り返り、話し合うことを繰り返していく中で、日々の自分たちの保育、子ども達との関係について見直していく。

#### 4. 経過と結果

##### (1) 第1期

##### <前年度までの様子>

- ・ カタツムリやにわとり等生物、小動物に親しみを持って関わる。
- ・ ごっこ遊びが好きで、友達と楽しむ。
- ・ クラス活動などでは、友達と一緒に活動せず、離れていることが多い。

##### ・ マイペース

##### <4.5月の様子>

- ・ 動植物に興味があり、クラスのうさぎや亀の世話を良くする。
- ・ 描いたり作ったりする製作活動が好きで楽しんでいる。
- ・ クラスの活動に入らず、「やらない」といって外れることが多い。
- ・ 自分の思いが通らない時には、泣く事が多い。

|        | Aの様子                                                                                   | 教師の思い                                                                |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| コーナー活動 | 母の日のプレゼント三角柱作り。「先生できない」と困ったようにやって来る。一緒に作ると喜び、次々と出来るごとに嬉しそうに教師に見せに来る                    | 新しいクラスになり新入園児を迎えクラスは落ち着かず、教師の思いは在園児Aよりも新入園児へと向いていた                   |
| 年長児の活動 | 林間保育へ向けて、クラスの年長児10名での話し合いや活動が繰り返された。その中で友達とのぶつかりあいがあると怒ったり泣き活動からはずれ別の場所に行ってしまう(エピソード1) | 泣いて表現することが多く、嫌なことがあると出て行ってしまうAに対して困った。対応に戸惑いを感じていた。「困った子」という印象さえあった。 |
| 林間     | 山登りの最中、リーダーの持っていた方位磁                                                                   | Aが言い出したことがきっかけとなり話し合                                                 |

|    |                                             |                                                                   |
|----|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 保育 | 石を「Aも持たい」と言い出し他の子から「順番」といわれ泣き出してしまう（エピソード2） | いが始まった。子ども達の話し合いを見守ろうと思った。泣いてばかりで話し合いにも言葉で表現しないAに教師も子供たちも困ってしまった。 |
|----|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|

前年度までのAの姿から、とても個性的な印象があった。新入園児を迎えたクラスは落ち着かず、Aよりも、新入園児の方に教師の気持ちは傾き、「早く落ち着いたクラスにではなくては・・・」という思いが強かった。コーナー活動の中で、Aは自分で遊びを見つけ遊んでいることが多く、教師もAに対して積極的に関わらなかった。エピソード1、2のように教師は、Aの困った行動ばかりに目が向き「集団活動を乱す困った子」という印象が強かった。関わりの少ないAと教師の間には、「楽しかった、嬉しかった」という共感は少なかったのである。林間保育（2泊3日）へ向けての活動や林間保育当日も、自分の思いを泣いてのみ表現し、中々話し合いに参加しないことに対してグループの子供たちと一緒に行動して欲しい、話し合って欲しいという教師の思いがなぜAに届かないのかと疑問と焦りを感じていた。しかし、記録を通し教師間で改めて振り返りを設け、なぜ活動を嫌がるかを検討した。当初「お父さんたちと別れるのは嫌！行きたくない」と言っていたAの思いに心を留めていなかった事に気づかされた。その結果、Aの不安の気持ちに気づき母とのコンタクトを取った。Aが安心して納得して林間保育に参加できるように考えたのである。その後「つぎつぎ話」をしていく中で生き生きとお話し作りを楽しむ姿を見て、これまでと違う姿を感じ、今のこの姿を大切にしていくことを確認話し合った。

## (2) 第2期

1期には、新学期の教師とAとの関わりを検討した結果、個別の関わり、信頼関係の希薄さに気づかされた。入園3年目のAであるが、新しい担任との良い出会いや関係を築く事なく、集団の中での漠然とした対応のみ行っていたのではないかと。改めてAの様子や思いを見直し、良い出会いをつくり信頼関係を築くことを試みることにした。

| Aの様子                                                                 | 教師の思い                                               |
|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 「先生、お手伝いしたい」と、毎日のように教師に伝えてきた。教師が手紙を配っているのを見るとすぐにやってきてやりたがった。（エピソード3） | Aの興味あることを通して良い関わりを持ちたいと考えていたが、なかなか上手くいかないため、模索していた。 |
| 「Aも当番したい。」と伝えてくる。教師との話し合いで、「お茶当番」を決める。（エピソード4）                       | Aが自分から教師に希望を伝えてくれたことを嬉しく思ったと同時に教師との関わりを求めていることを感じた。 |

エピソード3、4などを通して、Aが教師との個別的な関わりを求めていることが感じられた。教師には、どのようにAと良い出会いをもてるか難しいと思える日々が続いていたが、Aが興味、関心ある事を通して出会いを重ねていきたいと考えた。集団の中で活動を乱すAに「なぜ」という戸惑いが強かったが、関心のある事を行う事で、日々のよい出会いを繰り返す中で他の子ども達と比べることなく、A自身の成長のみを見守ることやA自身の良い姿を大切にしたいとすることができた。長い期間の中でつかの間の子どもとの出会いも繰り返すことが必要と思われた。

## 5.考察とまとめ

日々の幼稚園の生活の中で、どのように「子ども理解」を深めていくかということは、保育者にとって大きな課題である。

子どもたちと教師が、互いに気持ちや立場をわかり合うことで、より深い理解につながるのではないかと考えられる。

又、子どもたちをまとまりとしての集団としてより、個人個人を大切に見る事を通して、改めて保育の中の子ども理解について検討ができた。

保育の中で子どもとのよい出会いを重ねながら、一人一人の成長やその子自身の良い姿を認め、その子の成長する姿を長い見通しの中で知っていくことが大切であると思われる。

又、それらを通し常に自分自身の保育を振り返り明日からの保育につなげていくことが必要である。今回の事例のみならずクラスの子どもたちと常に良い出会いを重ね、理解を深めることでよりよい関係が実現するであろう。今後も、日々の中でより深い子ども理解を深めて生きたいと考える。